

会 議 録（概要）

会議の名称	平成 30 年度 第 4 回佐渡市行政改革推進委員会
開催日時	平成 31 年 1 月 10 日（木）10:00～13:00
場所	佐渡市役所会議室棟 第 2 会議室
会議内容	1 開会 2 議事 1) 個別施設計画（案）について 2) その他 ・次回、委員会開催日について ・その他連絡事項等 3 閉会
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	「行政改革推進委員」（10 名） ・会長 西川 祐一 委員 ・職務代理 佐々木 宏史 委員 ・行革推進アドバイザー 南島 和久 委員 ・委員 川島敏秀委員、後藤勇典委員、齊藤孝夫委員、大橋幸喜委員、 眞重與四郎委員、齋藤美佐枝委員、光村克己委員 ・市役所（3 名） 事務局 企画財政部 部長 濱野 利夫 企画課行革推進係長 椎 俊介 企画課行革推進係主事 菊池 勇司
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	1 人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
濱野企画財政部長	1 開会 (事務局 濱野部長より開会宣言)
推行革推進係長	2 議事 1) 個別施設計画（案）について ・次第には「個別施設計画（案）」とざっくり記載しているが、内容については、市長より諮問した「佐渡市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定について、施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方」について委員の皆様にご意見を求めるものである。
西川会長	・今回、委員会資料として改めて配布された個別施設計画（案）について事務局より説明を求める。
推行革推進係長	・前回お示しした個別施設計画（案）について、目次との不一致やガイドラインとの不整合等を指摘されている。そのため、修正させていただいたものである。
光村委員	(委員からの意見) ・個別施設計画（案）P.8 図3 について、総合管理計画 P.2 図1 には表示されている「公共施設見直し手順書「2012（H24）.12」が削除されているのは何故か。
推行革推進係長	・「公共施設見直し手順書」については、これまでの施設管理の指針であるが、今回の個別施設計画の策定段階においては、この手順書とは異なる観点によって施設評価等を行っている。 ・1次評価において施設の方向性を定めて以降は、引き続き手順書の内容に沿って進めていける部分もあると思うが、この点についても、近いタイミングで見直し手順書と個別施設計画の整合性を図るとともに、手順書そのものの見直しも必要と考えている。 ・この手順書の位置づけについては現在整理をしている段階である。個別施設計画については、基本的には総合管理計画に基づく計画であるため、総合管理計画 P.2 図1 の体系を変更することは考えていないが、現段階では整理ができていない状況である。
光村委員	・手順書の表示を削除したことについて明確な回答となっていない。何か意図があるのかと考える。
推行革推進係長	・意図はない。
光村委員	・承知した。
西川会長	・諮問事項における議論に入る前に、前回委員会の反省も含め、私から委員の皆様にご理解いただきたい点がある。諮問内容は「施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方」について意見を求められているのであり、個々の施設の方向性について意見するものではない。総合管理計画および、お手元の個別施設計画（案）P.5～6 に記載されている「施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方」については原則論であるが、その考え方に沿って計画を進めるに際し、考慮すべきと考えられる点について具体的意見を付すもの

	<p>であると私は理解している。皆様からはこの理解に沿ったご意見を賜りたい。見識ある皆様の意見を当委員会の意見として、市長に答申したいと考えている。</p> <p>(委員からの意見)</p>
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の個別施設計画（案）に記載はないが、佐渡市においては、コンパクトシティという考え方を記載していく必要があるのではないかと考えている。各々の地域における拠点を作り、そこに様々な施設を集約していく。それを佐渡市全体で見た時にコンパクト化されているという考え方である。もっと極端に言えば、へき地ではなく国仲地域に集約するという考え方もある。これらコンパクトシティに関する議論はあまりなされていないが、我々も触れざるを得ない点と考えるがいかがか。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な考え方ではあると思うが、計画全体がその考え方に拘束されるのではと危惧する。非常に大きなテーマである。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が 10 人程度という限界集落が現実に存在している。年齢層についても 75 歳以上が 40%を超えている。悠長にしている場合ではないということである。コンパクトシティの考え方についてはどこかに反映させる必要があるのではないか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティの考え方については、方法論の 1 つであると考え。定かではないが、佐渡市においても平成 27 年頃に議論があったものと記憶している。当時は 2～3 のモデルエリアも存在していたと思う。しかしながら、最終的には当時の市長によって「難しい」と結論づけられている。様々な方法論があるかとは思いますが、今回の諮問内容、また、行政改革という範疇からすると壮大すぎるテーマである。前面に打ち出す考え方ではないと考える。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティはインフラの更新も含めた話だろう。コンパクトシティという考え方は避けては通れないかもしれないが、「コンパクトシティ」とか「選択と集中」という場合には、「切り捨てられる地域はどうなるのか」という点が気になるところである。 ・コンパクトシティの考え方は、最近では「中枢連携都市」「定住自立圏」「拠点性の向上」といった風に、ソフトな言い方になっているが、言わんとしていることは同じことであるだろう。しかし、「切り捨てられる地域はどうなるのか」という点については、いつも問題になる。 ・コンパクトシティが重要なコンセプトであるという点は川島委員のおっしゃるとおりだが、その表現形式であるとか、具体的方法として使用するのか、抽象的な理念として掲げるのかという点については工夫の余地があるだろう。どういう用語法を用いるのかは、行政とよく相談をしながら考えなければならないと思う。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・従って、今回はこれ以上の議論はしないこととする。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは個別施設計画（案）P.5～6 に掲げられている「施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方」について事務局より説明を求める。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに記載されている「施設類型ごとの管理に関する考え方」については、総合管理計画において定められている内容と同一であるが、改めて個別施設計画（案）にもお示

	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の諮問内容の意味合いとしては「ここに書かれている考え方で良いか」という問いかけであるのご理解いただきたい。原則の話である。多少の例外は生じるであろうが、原則としてのご意見をいただきたい。 <p>(1) 公園等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容に補足する。都市公園施設については「公園施設長寿命化計画」が策定済みである。現在、公園施設については 85 施設となっているが、このうち 20 施設が都市公園としてこの長寿命化計画の枠に入っている。 <p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年前に都市公園法の改正があり、建蔽率が 2%から 12%に引き上げられた。全国の事例を見ると、この点を活用した公園施設のリノベーションということで、公園内に今までにない機能を入れることによって「稼げる公園」づくりが行われている。佐渡市についても、この考え方を積極的に取り入れることを考えるべきではないか。 ・例えば、公園内に保育園や民間のカフェを配置するなど、法律を細かく見ていくと良い意味で色々と調整できる要素がある。縮減のみではなく、民間提案を受ける PPP のような形で公募するような考え方を採用する余地があると考え。 ・一方で、公募したからといって手を挙げる民間は多くはないと思うが、佐渡市としても今後、官民連携の実績を作っていく意思表示は必要ではないかと考える。
椎行革推進係長	
後藤委員	
大橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施設類型ごとの話でなく、そもそもの話となるが、この「施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方」については総合管理計画に記載されているものと同内容である。それをわざわざ同じ表現でこの個別施設計画にも掲載する必要はないという意見は前回委員会においてお伝えしたところである。改めて個別施設計画に記載するのであれば、すべての考え方について具体性のある内容に置き換えるべきではないか。
椎行革推進係長	
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点において、総合管理計画に記載の内容を変更する考えはない。 ・文言を変更するのではなく、「ここに書いてある考え方で良いか？」という問いかけに対し我々は意見するのである。
椎行革推進係長	
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・後藤委員よりいただいた意見については、既定の長寿命化計画の中にそのような考え方が示されているのかは確認していないが、意見として反映する形としたい。 ・大橋委員の言わんとするところは、個別施設計画に記載するのは、総合管理計画の記載内容と同一でなく、もっと具体性を持った内容に置き換えるべきであるという提案であると私は理解する。例えば、都市公園については「総合管理計画にはこう記載してあるが、もっとこうあるべきである」という議論をしなければならないのではないかとということである。実際、私は公園施設のうち、どの公園が都市公園なのかもわからない。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・それを個別に議論するのではなく、当委員会の意見を、検討の余地があるように文書に落とし込むということで良いのではないかと。要は、何故縮小しなければならないのかと言うと、お金が無いからである。しかし、後藤委員の意見のように、有効活用することによって収益率が上がれば多少費用を要しても維持できる訳である。その方法につい

推行革推進係長	<p>て、民間の活用によって付加価値化できるように個別施設計画に入れ込むということが良いのではないかと。</p> <p>・今回委員の皆様よりいただいたご意見については、最終的には当委員会の答申書に取りまとめる内容のものであるということである。後藤委員よりいただいたご意見についても、文言と表現の整理をしながら答申書に反映させていく。</p>
西川会長	<p>・佐渡市の防災計画において避難場所に指定されている公園については、その点について、管理に関する考え方において加味すべきである。それら以外の小規模な公園については、大胆に整理していくことも考えなければならないのではないかと。</p>
齊藤委員	<p>・「トイレ棟は公園利用に欠かせない」という書きぶりから「トイレ棟は存続させるべき」という含みを感じる。一方で「公園施設管理を地元に依頼できるか協議のうえ判断をします」とも記載されている。トイレ棟は必ず存続させるということではなく、場合によってはトイレ棟も廃止するというのであれば、あえて「トイレ棟は公園利用に欠かせない」という表現は必要ないのではないかと。</p>
斎藤委員	<p>・「公園施設としてのトイレ棟」という考え方ではなく、公園は廃止するが、トイレ棟については公衆トイレ機能として存続させるという考え方は必要ではないかと。トイレに困っている観光客に遭遇することが多く、そのことを踏まえると、公園機能は廃止したとしてもトイレ棟については公衆トイレ機能として極力存続すべきと考える。</p>
推行革推進係長	<p>・齊藤委員のご意見について。記載内容については変更することは考えていない。ご意見内容については理解するが、「公園利用の実態や必要性を踏まえ」という点も加味しての判断となるので、現状の記載内容についてご理解いただきたい。</p> <p>・斎藤委員のご意見について。公園施設の廃止とトイレ棟の公衆トイレ機能としての維持については、「公園利用の実態や必要性を踏まえ」という点に鑑みれば、選択肢の1つとして考えられるのではないかとと思う。</p> <p>・なお、「公園施設のトイレ棟」以外の「公衆トイレ施設」については「その他の施設」に分類されている。</p>
推行革推進係長	<p>(2) 住宅等</p> <p>・記載内容に補足する。住宅については「市営住宅長寿命化計画」が策定済みであり、市営住宅についてはそちらの計画内容に沿って評価を行っているところである。</p>
後藤委員	<p>(委員からの意見)</p> <p>・「これまでの利用実績や今後の利用見込み」と記載されているが、現状で利用実績が少ない住宅であっても「将来のまちづくりを考えた時、このエリアに集合住宅を配置すべきであろう」とか「今後、重点的に人を入れていきたい」というような、現状の利用実績や今後の利用見込みだけではなく、『『どういうところに集合住宅を作って行けばコンパクトシティの核になり得るのか』といった観点で市営住宅の統廃合を考えていく』というような考え方も取り入れてほしいと思う。</p>
川島委員	<p>・後藤委員の意見に賛成である。将来のまちづくりを考えて、拠点的な地域には市営住宅の強化、維持を図っていくという表現を入れてほしい。</p>

南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今のお 2 人のご意見と、先ほどの事務局からの説明内容において気になっている点がある。何かというと、個別施設計画でまちづくりすべての話をしてしまうのか、それとも、個別施設計画については、あくまで施設の維持管理・更新の話に限定し、まちづくりは別枠の話ということになっているのかについては共通理解となっていないようである。その点を先に事務局から補足していただいた方が良いと思う。
濱野企画財政部長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの計画が将来ビジョンの中にもあまり表現されておらず、1 つの課題となっているかと思う。コンパクトシティの話についても、限界集落の話についても、まとまって将来ビジョンの中に表現されていない。個別施設計画については、まちづくりの考え方が包含されていても良いが、それが中心ではない。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの話には、言ってみれば「ブレーキ」と「アクセル」の部分がある。今議論している個別施設計画はどちらかといえばブレーキ寄りの話をしている。今のお 2 人のご意見はアクセルの話をしていると思う。 ・本来であればアクセルの部分は将来ビジョン等で描き出すものである。その部分は個別施設計画とは別に切り出すという理解なのか。それとも個別施設計画でもある程度議論しなければならないという理解となるのか。 ・ここはかなり重要な部分になる。個別施設計画をブレーキの話のみに限定するということになると、今のお 2 人のようなご意見は、せいぜい「はじめに」のところで少し触れる程度とし、中身はブレーキの話をメインにしなければならない。どういう理解の仕方をしたら良いのかは個別施設計画のコンセプトに関わる話になる。そこをお答えいただきたい。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的には施設を 70% まで減らしていくという部分がこの個別施設計画のメインテーマである。当然、まちづくりとは切っても切り離せないが、その部分についてはやはり将来ビジョン等で描いていくべきと私は考えており、今回のテーマについては集約や縮減という話である。軸足はそこへ置くべきと考える。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その考え方で良いと考える。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの私の意見については、「新設」という言葉は不要である。「維持」「更新」という表現で整理していただきたい。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど濱野部長の発言もあったが、将来ビジョンにおいてもまちづくりについては全く触れていない訳ではない。ともすると、将来ビジョンにおいて検討している内容を当委員会がこの場で改めて検討するという形にもなりかねない。 ・70% まで縮減するためにどうするのか。そのための基本的な考え方に絞って議論すると私は理解している。ただし、考え方は様々である。目標に到達するためには色々な考え方があるとは思っている。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・提案であるが、付随して出てくる意見については、答申として「なお」ということで「個別施設計画以外にもこういう意見があった」ということは書いていただくという整理をしていただければ良いのではないかと。そして、それらの意見については今後、将来ビジョンを見直す上で参考にしていただき、活用していただければ良いと思う。この委員会では意見としては色々出していただきながら、整理の仕方を工夫するという事ではどうか。

西川会長 光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりに進めることとする。 ・意見であるが個別施設計画（案）P.17～18 にかけて「（５）個別対応策の検討」が示されている。例えば、P.18 では「維持」「改善」「改廃」という方向性の中で「集約化」「複合化」「用途転用」「建替再整備」という個別対応策が示されている。 ・30%削減が基本とのことではあるが、「建替再整備」という考え方も個別施設計画（案）には記載がある訳である。よって、P.5～6 の管理に関する基本的な考え方についても、総合管理計画から切り貼りしたような文書ではなく、個別対応策を踏まえた文言にすべきではないかと考える。P.15「（４）基本方針の検討」を踏まえて P.17 以降で個別対応策の検討を行う訳である。基本方針の検討については P.15 に詳細に書かれている訳であるから、それを踏まえた表現が P.5～6 においても必要なのではないかと考える。従って、後藤委員、大橋委員の意見については取り入れるべきと考える。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・光村委員からは「取り入れる」という表現があったが、答申書において、各々の委員からいただいたご意見については、「こうあるべきであろう」という形にまとめたいと考えている。また、先ほど南島委員よりご提案のあった整理の仕方をしたいと思う。 ・策定済みの長寿命化計画等については、P.15 とは異なる考え方によって既に整理されているものである。P.5 の３行目には「策定済みの長寿命化計画、集中改革プラン等における方針との整合性を図ります」と記載しているが、この書きぶりを修正することで分かり易くしたい。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方は色々あると思う。私は P.5～6 の基本的な考え方を議論し、なおかつそれらの意見を踏まえてから、基本方針の検討に取り掛かるというイメージである。 ・光村委員は、基本方針の検討については P.15 以降で述べられている言っている。P.5～6 については、P.15 に沿って考えるべきではないかという意見である。 ・我々としては、P.5～6 について諮問されているから、その議論は進めさせていただく。 ・事務局の考え方としては、答申を受けた段階で、答申内容を踏まえて基本方針の検討作業へ進もうと考えているのか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・P.15 の内容については、１次評価を終えてからの２次評価の部分である。ここは当然、所管課のみの考え方ですべての方針を決定できない。利用実態、ニーズ、満足度を判断基準としながら評価していく作業となるので、利用者も交えながら、今後どうすべきかの話をしなければならない。 ・今回の個別施設計画の策定において、この２次評価の部分まで方針が出せるような施設はほとんどない。その点については、１次評価結果、当委員会の意見等を踏まえながら、市民の皆様の理解を得ながら進めていくしかないと考えている。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・当委員会の性格からして、諮問事項に沿って意見を提言していく。それが市政にどのように反映されるのかは行政側の判断にもよるが、１つの市民目線の意見というものを求められている訳であるから、それに対して回答していく必要があると考える。 ・２次評価の問題については、議会の意見やアンケート結果等色々な問題があるので、それはその評価の中で論議されることであって、我々はそのまで責任を負いかねる。まずは素直に P.5～6 の考え方について論議していくということではいかがか。
齊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成である。

川島委員	・確認させていただきたい。事務局としては、市営住宅長寿命化計画のように策定済みの計画があるものについては、その計画に沿うという考え方か。それとも、策定済みの計画についても、当委員会として「こうすべきだ」という提言を与えるものとして考えているのか。
椎行革推進係長	・私は「住宅については、長寿命化計画が策定済みである」という言い方をしたし、当然、策定済みの計画に沿って進めていくという考え方に間違いはない。 ・しかし、今回このような形で皆様にご意見をいただいているものについては、答申という形で、例えば、30%の削減目標であるとか、まちづくりであるとかを含め、「そういった視点も含めて進めるべきであろう」という形にまとめたいと思う。
川島委員	・是非、そういう方向でお願いしたい。
齊藤委員	・私は、基本的に当委員会はブレーキの役割を担うものであると考えている。川島委員のご意見については、アクセルの役割の話ではないか。
川島委員	・誤解されると困る。総量縮減という考え方には変わりはない。
佐々木職務代理	・住宅については、私と後藤委員には「拠点化」という考え方がある。将来の限界集落の人たちを引き上げることを考えて、例えば「国仲地域は強化する」「周辺地域は縮減する」というような考え方である。ただし、この考え方についても総量縮減が前提である。 ・委員会というものは、全員が同じ方向を向いていたら何のための議論の場かわからない。それはプラスもマイナスもあって良いと考える。 ・川島委員のご意見のように、拠点化の考え方を取り入れつつ、トータルで縮減しようとする人もいれば、ただ単に縮減すれば良いという人もいる。色々な意見があるが、それを個別に議論していたら終わらない。委員より出された意見については、事務局でブレーキなのかアクセルなのかを問わず「こういう意見がありました」ということを盛り込んでいただければ、それを見て市長もしくは行政が判断することと思う。
大橋委員	・1点、全体的なことだがよろしいか。答申の方法だが、例えば、個別施設計画（案）の内容を修正する形で答申するのか、それとも意見を文言のみに集約し答申書にまとめるのか。
椎行革推進係長	・答申書という形で、当委員会の考え方をまとめる。計画に書き加えたり書き換えたりするものではない。
大橋委員	・計画を直すのではなく、文言として答申するというスタイルか。
椎行革推進係長	・そのとおりである。その中で、先ほど南島委員よりご指摘いただいたような整理の仕方を工夫させていただくということである。
西川会長	・これまでもそうであるが、南島委員のおっしゃるような整理をして、答申書という形で市長へレポートする。
光村委員	・先ほどの質問の続きであるが、諮問書に関しては、個別施設計画の基本的な考え方に関する意見を求められている訳である。したがって、計画全体の基本的な考え方に関する答申をしなければならない訳である。そうであれば、個別施設計画（案）P.5～6については、総管理計画からの切り貼りのような内容ではなく、P.17以降の「（５）個別対応策の検討」と整合性を図りつつ、全体的に具体性のある内容に置き換えるべきではないか。

<p>推行革推進係長</p> <p>光村委員</p> <p>南島委員</p> <p>光村委員</p> <p>南島委員</p> <p>佐々木職務代理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諮問内容はあくまで「施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方」について意見するということであり、それに対して答申をする。答申内容については整理の仕方において、様々な表現を含められるよう工夫する。 ・ であるから P.17 以降と整合性のある考え方を P.5～6 に整理すべきかと思う。 ・ 整合性というのは、例えば「集約化」ということか。 ・ そのとおりである。 ・ P.17 以降に「集約化」と記載されているから、P.5～6 にも「集約化」と記載すべきということかと思う。 ・ そういう意見もございますということで皆様もご理解されたと思うので、順番に進めていくということによろしいか。
<p>川島委員</p>	<p>(3) 民生関連施設 (委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 18 年に「佐渡市保育園・小学校・中学校統合計画」が策定されている。計画期間については平成 29 年度までであるので、もう終了したこととなっている。 ・ 確認させていただきたい。相川地区では平成 30 年になって小学校統合化の住民説明会を実施している。計画期間は終了しているはずであるが、「やはり前計画に沿って進める」ということで住民説明会を行っている。前計画についてはどのような取り扱いと考えるべきか。
<p>推行革推進係長</p> <p>大橋委員</p> <p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統廃合計画については、保育園については計画期間・内容ともに完了している。小中学校については、施設分類は教育関連施設であるが、前計画期間は終了している。ただし、実績としては目標未達成の部分が発生しており、新たな計画を策定するという話は聞いている。 ・ 保育園については、民間譲渡の考えは全くないのか。 ・ 現在、理事者からも民間譲渡を含めた民営化について検討するよう、所管課には指示が出ている。 ・ 行政改革の大きな方針としては、10 年以上も前から「民にできることは民に」という考え方が示されている。
<p>大橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民営化や民間譲渡という考え方があるのであれば、その文言は反映させていただきたい。
<p>推行革推進係長</p> <p>光村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。 ・ 保育園と老人福祉施設の 2 つについてのみの記載しかない。児童福祉施設、障がい福祉施設については記載がないが、その点についてはどのように考えているのか。
<p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員ご指摘のとおりである。私自身、それらの記載がないことについては疑問に感じていた。従って、答申書の中に意見という形で補足できればと考えている。ご意見をいただければと思う。
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢福祉施設については、第 7 期介護保険事業計画についての考え方との整合性を図られることについて、意見として申し上げたい。

<p>椎行革推進係長</p> <p>川島委員</p> <p>西川会長</p> <p>川島委員</p> <p>西川会長</p>	<p>(4) 環境衛生施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容について補足する。基本的な考え方の中には「集約化」という文言もあるが、火葬場については3施設に集約し終えている状態である。今後の維持管理をどうするのかという話となってくる。 <p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生施設の中には保健センターが含まれている。国の方針に鑑みればこの施設についてブレーキをかける訳にはいかないと考える。保健センターの集約化については、一定の考慮が必要と考える。 ・全体の考え方としては集約化であるが、今、川島委員の言ったとおり「国の方針に鑑みて検討されたい」という意見となる。 ・保健センターという施設の考え方に関しては、むしろ別建てにすべきではと考える。 ・意見として付すこととする。
<p>椎行革推進係長</p> <p>佐々木職務代理</p> <p>椎行革推進係長</p> <p>佐々木職務代理</p> <p>椎行革推進係長</p>	<p>(5) 診療施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容に補足する。両津病院については新両津病院整備計画ということで、ご存じのとおり、佐渡市内における住民説明会も含め、新設という方針が打ち出されたところである。診療施設については、新穂田野沢の診療施設が平成29年度をもって廃止されている。 <p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両津病院については承知しているが、特養施設である歌代の里も新両津病院と同じ場所へ移転というような話が聞こえてくる。それについては、縮減対象施設とは無関係の扱いなのか。 ・当該特養施設については、先の住民説明会の際の理事者の発言をお借りすると「民営化するのかどうかも含めて検討する」というような言い方である。民営化されればベストかと思うが、方針そのものについては確たるものではない。 ・まさに民間との機能重複施設であるから縮減対象施設であると私は考えており、民間移譲をしていくという方向性で良いと思う。民間には無い施設で、行政がカバーせざるを得ないという施設であれば話は別だが、この施設についてはあえて行政が直営で保有する必要性はないと思う。施設については市が建設するとしても、その後は民間移譲が好ましいと考える。 ・承知した。
<p>後藤委員</p>	<p>(6) 産業関連施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業関連施設といっても色々あると思うが、その中で「本来民間でのサービス提供が可能である」「行政が保有する必要性が他の施設に比べて低い」「これらの施設は原則として更新は行わない」とある。具体的にどういう分野の施設が対象となるのか。 ・産業関連施設すべてが更新を行わない対象ではないと思う。

椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・対象施設については、総合管理計画 P.64～65 に掲げられている施設ということになるが、例えば、民間に譲渡したとしても採算の合わない施設について、譲渡は難しいと考える。採算が合わないからこそ行政が保有しなければならないという考え方は当然あると思うが、例えば、真野の栽培漁業センターのような施設を水産業者が活用して収益を上げるというような考え方はできると思う。しかし、後藤委員のご質問のとおり、それら施設が具体的に分野別に分類されているのかということそうではない。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本来、行政が保有する必要性が低い施設については譲渡も視野に入れるべきであるが、「儲からない」「維持管理すらできない」というのが現実ではないか。 ・すなわち、この書きぶりであると将来的にはすべて廃止せざるを得ないのかなという危惧がある。この施設類型の中にあっても、必要と判断されるものに関しては市が保有すべきではないかと考える。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおり、この施設類型に関しては、明確に「更新しない」「使用を中止する」と記載されており、明らかに削減対象施設である。ただ、有効活用については、行政にはない視点で考えられる点について、民間の方にもお知恵をいただきたい部分である。実際、民間が施設を保有し利益を生み出すことは難しいかもしれないが、やはりこれだけ多くの施設すべてを行政が保有することは厳しい状況である。この施設類型については、有効活用について、民間への働きかけも必要ではないかと感じている。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この施設類型には観光案内所が含まれている。これについては縮小すべきでなく、強化すべきである。海外を走って行けば、無人の案内所などたくさんある。観光誘客に力を入れるのであればもっと整備すべきである。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所については佐渡観光 DMO へ移行ということになるかと思うが、海水浴場施設やキャンプ場については、「原則として更新しない」という紋切り型の表現でなく、必要なものや有効性のあるものについては民間譲渡を大前提として進めていくというような書き方が必要ではないか。 ・先ほど齋藤委員から意見があったが、トイレについても観光という観点から考えると、「原則として更新しない」という書き方は市民の反発は大きいと思う。民間譲渡を前面に押し出すような表現が良いと思う。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今の委員の意見については、総じて民間譲渡を前提に考え、その上で更新・廃止を判断することという意見を付すこととする。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今のこのような意見が出てきてしまう 1 つの原因としては、言葉の曖昧さがある。場合によっては再整理していただいた方が良いかも知れない。 ・例えば、この文言の中で「行政が保有する必要性が他の施設に比べて低いと考えられます」は、他の施設類型、すなわち公園等、住宅等、民生関連施設等と比較すると相対的に必要性が低いと言っているのかと言うとそうではない。「これらの施設」の概念は、産業関連施設全般のことを言っているのかと言うとそうではない。「これらの施設」は「本来民間でのサービス提供が可能であるような施設」と記載されている。 ・本日のこの議論を踏まえ、もう少しこの文言自体全体を再整理した方が誤解がなく良いと思う。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・産業に関しては、佐渡市の活性化、地域産業の発展という点において非常に重要では

西川会長	<p>ないかと思う。確かに、廃止すべき施設もあろうかと思うが、例えば、牧場施設もある中で、畜産振興の観点においても影響が大きくないように、利用者と綿密に話し合って結論を出すような表現としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かに畜産関係の予算を見ると、昨年度に比較して非常に大きな予算となっている。全体的に産業施策との関わりをどのように考えるのかという点については疑問である。 ・南島委員のご指摘のように、書き方の問題において誤解を与えないよう、多少踏み込んで整理をするように意見にまとめさせていただきたい。
椎行革推進係長	<p>(7) 会館等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容に補足する。小木地区公民館については、小木行政サービスセンターの建替えに伴い、機能移転し複合化施設となっている。また、将来ビジョンでもお示ししているとおり、両津文化会館については新両津支所に機能移転する計画となっている。
西川会長	<p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活性化センターなど、農林水産事業で整備した施設が多数ある。それら施設の管理については集落に任されているのか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった施設も多い。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・固定資産税の扱いはどのようになっているのか。
菊池行革推進係主事	<ul style="list-style-type: none"> ・それらの施設については、市の所有のため固定資産税は発生しない。そのような状態で、管理のみ集落に任せている施設が非常に多いと聞いている。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・悩ましいのは、このような施設が避難所に指定されていることである。集約することも難しい。「地域に任せているから良い」という理解にもならない。
菊池行革推進係主事	<ul style="list-style-type: none"> ・これら地区集会施設の中にも集落への譲渡を検討しているものがあるが、避難所に指定されている施設や公共性が高い施設もあり、地域事情なども含めて抜本的な検討がなされていない施設が多いのが現状である。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化も進んでいるが、地域の管理であるので地域で何とかしなければならないという思いもある。かつては市が補助金を出したこともあると記憶しているが、またそのようにするのか、あるいは「地域のことは地域で」という方向性に持っていくつもりなのか疑問に感じている。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者評価について、当委員会では検討するのか。それとも、指定管理者評価委員会があるので有用性に関しては評価しないこととなるのか。その整合性に関してはどう考えればよいか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどのアクセルとブレーキの話と同じく、切り離すことのできない話ではあるが、軸足に関しては指定管理者評価ではない。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までも指定管理者評価については当委員会で議論したことは無い。指定管理者評価については指定管理者評価委員会で考えるべきではないか。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者評価の個別案件は指定管理者評価委員会で考え、大枠として当委員会で議論するという理解でよいか。
大橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・我々が全ての施設を見た時、その中にたまたま直営施設や指定管理施設があったりす

西川会長 大橋委員	<p>る訳である。決められた特定の施設だけを指定管理者評価委員会で議論する建てつけであり、当委員会はそれらの施設を含めた全体の施設について議論する場ではないのか。指定管理施設を当委員会の議論の対象から除外することはおかしいのではないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それは、指定管理評価についての論議はしないということである。 ・指定管理評価の論議ではない。今の発言は、指定管理施設に関しては論議しないと聞こえる。複数の指定管理施設があるが、それらの施設を論議の対象から除外することはおかしいのではないのか。指定管理施設の中にも民間譲渡を検討している施設がある中で、なぜそれを議論の対象から外すのか。
西川会長 佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度を適用するか否か、というような議論はしないということである。 ・議論については指定管理施設も含めてすると言う話である。ただ、指定管理者制度の細かな点までを議論の対象とはしないということである。
西川会長 大橋委員 南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の当委員会の議論の対象施設には含めるということである。 ・承知した。 ・今の議論については非常に重要であるので、付記していただき整理する必要があるかと思う。今の議論のとおりに整理していただくのがよいと思う。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活性化センターについて、以前は原則として集落へ無償売却する流れであったが、そのような手法は考えられないのか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・方法論の話になってくるかと思う。現状のように施設は佐渡市が所有し、管理は地元をお願いしているという形態の施設の中には、本当であれば施設ごと集落に譲渡したいという施設もあろうかと思う。そのような施設の今後について、どのように考えるかという話であるかと思う。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどが農林水産関係事業で建てたものである。所管課としての考え方が大きく出てくるのではないのか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・所管課としても当然譲渡と言う考え方を元に2次評価を進めるものと思う。その中で、集落とも話し合いを含めながら考えていくしかないと考えている。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合管理計画 P.66～67 の一覧表には記載されていない活性化センターも見られる。それら施設については公設民営ではないということか。
西川会長 菊池行革推進係主事	<ul style="list-style-type: none"> ・私の地元の会館については完全な集落管理ということで買い取った。 ・先ほど川島委員がおっしゃったように、かつては集落に譲渡するという流れがあり、その中で西川会長の集落のように買い取られた施設と、佐渡市の所有のままの施設とがある。集落に譲渡した施設については、当然公共施設ではないので一覧表には掲載していない。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・会館については、たった2行の記載しかない。利用している集落からすれば重要な問題であり、この書き方も市民に対して非常に失礼である。方向性についてはこれで良いが、もっと柔らかい表現、より理解の得られる表現とすべきである。個別施設計画（案）P.5～6の文面については、総合管理計画の切り貼りでしかない。その点については、これまで委員から出された意見も含め、市民の納得が得られるような表現とすべきである。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・公式な文章であるので修正は難しいと思慮するが、もう少し柔らかい、市民から理解を得られるような形の文章としてほしい、という意見を付す形でまとめてもらいたい。

光村委員	・総合管理計画に関しては修正できないが、個別施設計画についてはまだ（案）の段階であるので文言の修正は可能なはずである。
西川会長	・当初事務局から、この文言については総合管理計画の切り貼りであるので、変更を加えるものではないとの発言があったが、それに関しては決定ではないという理解でよいのか。
椎行革推進係長	・基本的に総合管理計画に基づく個別計画と言う位置づけのため、総合管理計画の方針に従うことと定められている。ここについて改めることは考えてはいない。
南島委員	<p>・今のお話は、総合管理計画と個別施設計画はそれぞれ上位計画と下位計画である、という考え方に基づくものであると思う。そのような側面もあると思うが、国のガイドラインにおいては、行動計画と個別施設計画という表現である。</p> <p>・国のガイドラインでは、利用実態等を踏まえて個別施設計画を策定しなければならない。つまり、より深掘りをしなければならないということとなっている。佐渡市においてもその段階まで進むことができれば、先ほどのからの議論のとおり、上位計画と下位計画という色彩がはっきりするだろう。</p> <p>・ただし、国のガイドラインのいう個別施設計画は、利用実態を明らかにすることとしているので、佐渡市の個別施設計画（案）については、まだその手前の段階であり、総合管理計画の基本方針を上塗りした状態にすぎない。もっと深掘りができれば別々の話に色彩を分けることができるが、そこに至っておらず、「とりあえず実態を把握しましょう」という程度でしかなく、重複感が強い状態にある。</p> <p>・この状態にある佐渡市の個別施設計画（案）については、利用実態の把握ができていない今の段階では致し方ないところと思う。そうであるが故に、佐渡市では国のガイドライン上の名称とは異なる名称としているのかなと個人的には思っている。</p>
大橋委員	・先ほどから書き方に誤解を招く部分があり、疑問を呈する意見が多くある。私の提案としては総合管理計画の中に「財産分類（小）」「財産分類（細）」があるが、この分類に沿って記載することで、概要計画として位置づけられると同時に、「丁寧な説明」についてもクリアできると考えるが、いかがか。
南島委員	・究極的には、もう少し時間を要すればご提案の形になると思う。ただ、利用実態把握ができていないので、細かく分類して方針を出すことは今の時点では意味がない。この計画を策定した後は、改定を何度も繰り返してバージョンアップを重ね、最終的には大橋委員がおっしゃったような形に近づくのだと思う。その入り口、スタートアップのための文章だと個人的には解釈をしているが、事務局としてはどうか。
椎行革推進係長	<p>・今ほど南島委員がおっしゃられたとおりである。</p> <p>・2次評価については行政だけで決定できるものではない。また、2次評価の元となる1次評価や施設の実態については、現時点では「基礎的な資料を取りまとめた」という意味合いが大きい。南島委員のおっしゃるとおり、この計画は繰り返し更新をしていく性質のもので、地域住民との話し合いを経て、ご理解をいただいた時点で少しずつ施設の方針が定まっていくというような形となる。したがって、大橋委員のおっしゃるような形に到達するのはもう少し先になると考えている。</p> <p>・1つの目安として、総合管理計画の見直し時期が5年ごとであり、直近では3年後に見</p>

南島委員	直しとなる。そのタイミングで類型ごとの方針についても見直すつもりである。
推行革推進係長	・文面の直接の変更はできずとも、この委員会では意見はどんどん言っていただいた方がよい。どちらの方向に進むかという話は、今後の方向性を定めるにあたり重要な議論となってくる。途中の議論がショートカットされてしまい、現在の時点では説明不足の計画でもあるので、そのような説明を答申に付け加えると良いのかなと思う。
西川会長	・承知した。
濱野企画財政部長	・計画に関してはこれまでの当委員会の審議事項と異なり、手探りの部分が多い。詳細まで議論すると収拾がつかない部分もあると思う。第1段階として、総合管理計画上の文面に対し、当委員会としての意見を答申に反映させるという形で整理させていただきたい。
	・関連して、市としては市民と議論を尽くしたうえで施設個別の方向性について決定していかなければならないが、それについては、計画を直しながら進めていくしかないと考えている。まず入り口として毎年見直しを前提として作成し、地域の方々と対話し、理解が得られてからでなければ、いきなり方針を示すことはできない。キャッチボールをしながら少しずつ改善していくということが基本的な考え方であるので、ご理解をいただきたい。
	(休憩、用務により濱野企画財政部長退席)
推行革推進係長	(8) 教育関連施設 ・記載内容に補足する。直近としては、平成26年の相川学校給食センターの整備、提供食数の減少による畑野学校給食センター共同調理場の国仲学校給食センターへの統合などがある。また、給食センター全体としては遅ればせながら当市も学校給食業務のアウトソーシングへと舵を切っているところである。また、文中にもあるとおり「学校施設の長寿命化の手引き」に従い、「佐渡市学校長寿命化計画」が今年度中に策定される予定である。
佐々木職務代理	(委員からの意見) ・この発言は意見ということで捉えていただければよいが、県の施設である中等教育学校の給食を佐渡市が提供している。その費用を市が負担するという点については再議論が必要であると思う。
川島委員	・総合管理計画 P.67～70 の一覧表には廃校施設は掲載されていない。どのような扱いになるのか。
推行革推進係長	・廃校施設は普通財産施設になる。総合管理計画の一覧表に掲載されている施設は行政財産施設のみである。したがって今回の議論にも含まれていない。普通財産施設については、所管課である防災管財課を中心に、利活用も含めた検討がなされている。
推行革推進係長	(9) 社会教育関連施設 ・記載内容に補足する。作年度より議論がなされている社会教育関連施設の解体等につ

	<p>いては、かねてより集中改革プランの中で廃止と位置付けられている施設となっており、個別施設計画においてもその方針を受け継ぐ形としている。</p>
齋藤委員	<p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在相川地区に建設中の金銀山ガイダンス施設（きらりうむ佐渡）が完成した際には施設リストに掲載されることになるのか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
椎行革推進係長	<p>(10) 保健体育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容に補足する。平スキー場については、集中改革プランにおいて廃止の方針であったが、近隣の民間のスキー場の廃業などもあり、存続という方針に転換したことが直近の現状として挙げられる。
椎行革推進係長	<p>(11) 消防施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容に補足する。佐渡市の独自ルールとして、規定時間以内に消防車等が到着できるような圏域への施設・職員の配置が行われており、従前より予防保全型管理の観点から施設の維持管理を行っている。
齋藤委員	<p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に施設や設備はあってもそれを動かす消防署の職員や地域の消防団員がいないという状況が考えられるかと思う。今回の議論では、人の問題は考えず、施設のみの議論を進めるのか。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、職員に関しては佐渡市定員管理計画に基づき職員数の管理が行われている。これは先ほど申し上げた規定の時間以内に消防車等が到着できるような圏域への施設・職員数の配置に基づき、これ以上削減できないところまで切りつめている。これ以上削減する計画もない。 ・地域の消防団員に関しては、現在佐渡市より補助金が出ているが、いつまで出せるかわからないという事情もある。消防本部では一般市民向けに人命救助の研修などのプログラムを持っており、それらをより若い方に受けてもらうような工夫も必要であろうと思う。地域においても自主防災の観点から積極的に取り組んでもらう必要があろうかと思うが、今回の議論には地域の消防団員数などの観点は入っていない。
齊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予防保全型管理とはどのような考え方か。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・個別施設計画（案）P.11 に記載している。事後的なメンテナンスでなく、事前のメンテナンスによって劣化を未然に防ぐという考え方である。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・個別施設計画（案）P.11 の文言であるが、「計画的に修繕等を行う保全は計画保全と言う」と記載されている。P.6 には「計画的な小修繕を行うことによって、施設延命化を図るなど、計画的な管理に努めます」との記載がある。「計画」という文言が2回も登場しているにも関わらず「予防保全型管理」と記載されている。「計画保全」と記載した方がすっきりするのではないか。また、「施設の延命化」という言葉が、P.11 では2「長寿命

<p> 椎行革推進係長 椎行革推進係長 南島委員 椎行革推進係長 西川会長 椎行革推進係長 西川会長 椎行革推進係長 西川会長 南島委員 椎行革推進係長 </p>	<p> 化」となっている。消防本部とも協議し、文言の整理が可能であればしていただいた方がよいだろう。 ・ 承知した。 (12) その他の施設 ・ 記載内容に補足する。この施設類型には、庁舎、スクールバスの車庫、公園に含まれない公衆トイレ、宿泊施設などがある。現在の総合管理計画には掲載されていないが、世界遺産関連の建造物を市が買い取っており、それらの施設が追加されることになる。 (委員からの意見) ・ 文言の整理として、市町村合併について、個別施設計画(案) P.6 では「2004(平成16)年の市町村合併以降」「旧市町村単位」「旧市町村時代」と記載されており、P.3 では「合併前に10市町村によって整備された」と記載されている。文を追うごとに説明が詳細になっていく。この議論にとって非常に重要な文言のため、整理が必要かと思う。 ・ 承知した。 ・ 開かずの間のような、使用されていない施設が散在している。そのようなところに対して、より踏み込んだ論議をしてもらいたい。 ・ 承知した。 2) その他 ・ 次回、委員会開催日について (次回の委員会において市長に答申予定であるが、事務局で事前に答申書(案)を作成し、各委員と書面でのやり取りを行ったうえで内容を決定していく方針で説明。次回の開催については3月中とし、各委員と日程調整を行ったうえで決定することで了解を得た) ・ 答申書(案)について、委員に示されるのはいつ頃か。 ・ 本日より2週間後を目途にお示ししたいと考えている。 ・ それまでに本日の委員会の中で発言しきれなかった疑問点等があれば、各委員より事務局宛にメール等で質問してもらいたい。くれぐれも本題から外れた質問は避けていただきたい。 ・ 個別施設計画(案) P.1 の文章について、『『インフラ長寿命化計画』において、地方公共団体においても、行動計画と個別施設計画を策定することが求められています』とある。国の『インフラ長寿命化計画』で求められているのは「地域の実情に応じてインフラ等の計画を策定すること」である。したがって、『インフラ長寿命化計画』で求められているから個別施設計画等を策定するというロジックではなく、地域の実情に応じ、佐渡市が必要であるから個別管理計画を策定する、というロジックをここで記載することが望ましい。 ・ 承知した。 </p>
--	--

齋藤委員	・ 公共施設のアンケートの実施状況について、保留なのか中止なのかを聞きたい。個人的には施設の方針について反対運動が起きた時の後ろ盾になるのではと考えていたが、先ほどの部長の発言では住民説明は計画策定後順次時間をかけて実施するとのことであった。それであれば多大な手間と費用を要して実施する必要は無いのではないかと。
菊池行革推進係主事	・ アンケートに関しては理事者より内容の変更を指示されており、中止の指示があった訳ではない。施設個別の方向性については、市民との意見交換を経て決定するという点については変わらないが、アンケートによって得られた佐渡市全体としての意見は非常に有用であると考えている。例えば意見交換会を開催した場合、そこに集まるのは施設の利用者やその地域の住民が多数であると考えられるが、そこに佐渡市全体としての意見をお示しできれば、齋藤委員のご意見のとおり、後ろ盾として有用なものであると考えている。
齋藤委員	・ 実施時期については未定ということか。
菊池行革推進係主事	・ 今のところ未定であるが、なるべく早期に実施したいと考えている。
光村委員	・ アンケートは個別施設計画策定より前に実施するのか。
椎行革推進係長	・ その予定であるが、今回の計画の作り付けが国のガイドラインに従ったものであるので、アンケート結果を反映しにくい。従って策定後、2次評価を実施する際の参考としても活用したいと考えている。
光村委員	・ 個別施設計画を策定する前に住民説明会を実施するということでよいのか。
菊池行革推進係主事	・ 個別施設計画については、集中改革プラン、将来ビジョン等で既に方針が決定している施設以外の施設については、個別の方向性について掲載できないため、方針が決定していない施設については計画策定後に住民説明会を行うことになる。
大橋委員	・ 個別施設計画（案）の文面について意見したい。P.7 のインフラ施設のうち、情報通信ケーブルは「更新費用の不足が課題となります」で終わっているため、今後どうするかという方向性の文面を追加してもらいたい。 ・ P.8 第4章に「集中改革プラン等と整合を図る」と記載されているため、P.8 図3 に集中改革プランも追加してもらいたい。第3～4章の内容としては、個別施設計画の位置づけ、計画の対象、計画期間と言う基本的内容を示すものである。従って、第2章よりも前に記載するのが適切であると考えます。
椎行革推進係長	・ 承知した。 ・ その他連絡事項等 (第3回委員会において質問のあった委員会議事録の実名表記等について、佐渡市の方針に沿って説明。引き続き、議事録の発言については実名表記とすることで委員全員の了承を得た)
佐々木職務代理	閉会